



世界で活躍する
日本の建設企業



工事現場全景



鋼管杭打設工事



フェリーターミナル完成予想パース

ディリ港 フェリーターミナル 緊急移設計画

飛鳥建設株式会社 国際支店 東ティモール ディリ港作業所 所長

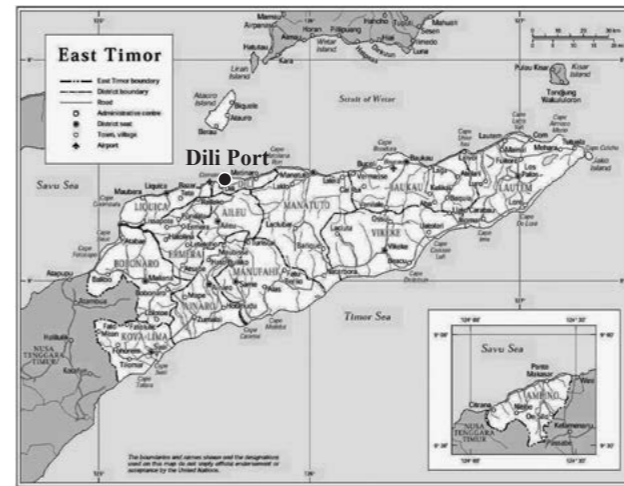
小滝 功

Takumi Kodaki



東ティモール民主共和国の紹介

東ティモールは、二〇〇二年にインドネシアから独立したアジアで最も新しい国である。国土は、インドネシアの南東部に位置するティモール島の東部にあり、島の西部はインドネシア領、南側にはティモール海を挟みオーストラリアがある。人口は約一一八万人であり、九九%がキリスト教徒、残り1%がイスラム教徒である。



東ティモール地図

国土面積約一五、〇〇〇平方キロメートルの内、約六〇%が山岳地帯であり、高地を利用したコーヒーの栽培が盛んである。東ティモールコーヒーは、少しの苦みと抑え気味の酸味に特徴があり、日本のコーヒーショップ等でも貴重な逸品として取り上げられ、東ティモール主要輸産業の一翼を担っている。

プロジェクトの紹介

東ティモールの首都ディリにあるディリ港は、国際貨物船のみならず、飛び地や離島を結ぶフェリーも寄港する重要なインフラ施設である。現在のフェリーターミナルはコンテナヤードに近接しており、旅客乗降と貨物関連作業を同時に行えず、双方の安全性・効率性が阻害されており、また近年の需要増加に対応するための新たなフェリーの導入も計画されていることから、フェリーターミナルの移設が喫緊の課題となっていた。

本プロジェクトは、日本政府の無償資金協力事業により、ディリ港において、既存のフェリーターミナルの移設・拡張を行うものである。

工事の概要

本工事では、既存ディリ港西側に隣接する形で、船舶二隻が接岸可能なフェリー棧橋（延長

一〇〇メートル幅員二〇メートル）と可動ランプ付きのプラットフォーム二、六九五平方メートルの建設工事を二一カ月の工期で施工する。

棧橋部上部工では、常時、棧橋の一部が海面下にあるため、工期短縮ならびに品質向上を目的として、分割式プレキャスト及び水中不離コンクリートの使用を計画している。

当現場の特徴として、近接した既設の港湾施設が稼働しているため、一般コンテナ船及びフェリーが工事区域を航行することが挙げられる。そのため、施主及び港湾管理関係者と入念な協議を行い、工事エリアの明確化・船舶監視人の配置等を行い、本工事において特に安全第一・絶対無事故を心掛け、職員・職人一同に周知徹底を図っている。

終わりに

首都ディリには、大学・専門学校が集中している。主要工事施工前にも関わらず、当現場には多くの学生がインターンとして研修に参加しており、注目度の高さと責任を実感している。

共に働く現地スタッフ及び職人とは、無事故で、明るく楽しい快適職場を目指しており、日々のコミュニケーションを心掛けるとともに、日本の技術伝承を通じてこの国の経済発展に貢献するべく工事を進めていく。